

## 公刊にあたって

皆様のご協力のおかげで「わが国の慢性透析療法の現況（2007年12月31日現在）CD-ROM版」をここに発行する運びとなりました。

「わが国の慢性透析療法の現況」（以下、「現況」）の歴史は、1968年に透析医学会の前身である人工透析研究会が発足以来、事務局を率いておられた千葉大学の小高通夫先生が、事務局の業務としてはじめられたアンケート調査に始まります。1986年に人工透析研究会内に統計調査委員会が発足し、初代委員長に小高通夫先生が就任されました。1989年、京都大学澤西謙次先生が第二代、1990年より前田憲志名古屋大学教授が第三代委員長に就任され、ほぼ現在の統計調査の形態が構築されました。他疾患領域には類をみない、慢性透析患者に関する詳細な統計成果が、会員に報告されるようになりました。

2000年には秋葉 隆東京女子医科大学教授が第四代委員長に就任するとともに、統計調査委員会事務局を名古屋大学から透析医学会事務所内へ移動されました。その後、コンピュータシステムの変更、さらには「現況」を従来の紙ベースでの出版から CD-ROM による配布に変更されました。同時に、重要データを図表化した速報「図説 わが国の慢性透析の現況」（以下、「図説」）の配布が開始されました。また死因コードの国際標準への移行、「倫理」「個人情報への配慮」および「利用規程」の決定が行われました。

この間、本調査データを用いた様々な解析研究が行われ、日常診療に関するエビデンスとなり、様々なガイドライン作成のエビデンスとしても用いられ、透析患者の生命予後や QOL 向上に貢献してきました。

2006年6月から私が第五代委員長を拝命し、この様に偉大な先達の後を継がせて頂くこととなりました。

まず、蓄積された貴重な財産である調査データの質の向上、蓄積データクリーニング、解析システムの構築などを目標に掲げ、これを行うための事務局機能および、統計調査委員と地域協力委員の協力体制の強化が必要と考えました。その結果、理事会の承認を得、事務局担当職員の増員、地域協力小委員会の設置を実現しました。また解析依頼の急増に対応するため、(株)日本科学技術研修所(日科技研)と契約し、その解析結果を昨年と本年の CD-ROM に掲載し、十分な統計解析に対応出来る体制を整備いたしました。

本年、再度委員長を拝命し、本格的な調査データの解析の目的で、統計調査小委員会を廃し、統計解析小委員会とし、人事の刷新を図る目的で、若手委員の公募を実施しました所、数名の募集に対し 20 名にも及ぶ応募を頂きました。人選には苦慮致しましたが、まさに本透析医学会の調査データの重要性が認識されている事を再確認致しました。このような基盤整備が整った段階で、本年度から会員からの公募研究に対応する事となりました。初年度は 2007 年度末調査結果に基づく内容に限らせて頂きますが、データクリーニングに合わせ漸次拡大する予定です。本 CD-ROM をご覧頂き、興味有るテーマが有れば、是非応募頂ければ幸いです。

次に 2007 年末現在の慢性透析患者調査の経過および結果を報告します。本統計調査の対象となる慢性透析療法実施施設名簿を、本学会施設会員施設名簿に加え、地域協力小委員会の先生方のご協力により非会員施設、新規開設施設を網羅し、2007 年 10 月に作成いたしました。2007 年末の対象施設数は 4,098 施設と 2006 年末(4,051 施設)に比べて 47 施設増 (1.16%増)となりました。

同対象名簿を基に 11 月末にフロッピーディスクまたは CD-R とアンケート用紙を送付し、ご回答の得られた結果を、既に本年 6 月に、速報「図説 わが国の慢性透析療法の現況」として協

力施設に配布し、日本透析医学会のホームページにも掲載されています。

また本年から、「図説」の作成後も、調査データの質の向上を目的に、多数の施設に対し、データの再確認・再調査を行いました。その結果、シート1の回収施設は4,052施設（図説では4050施設；前年3,985施設）と始めて4000施設を上回り、回収率も98.88%で前年（98.37%）を上回る結果が得られました。シート2、3、4の未回収も199施設（前年244施設）と減少し、全体としては、慢性透析患者の現況を示す統計資料としての質を担保する回収率を維持することができました。本CD-ROMデータは再調査結果を反映していますので、「図説」データ（速報）より正確となっており、本調査データを「調査年度末データ」と定義する事としました。また、次年度にはさらに、調査漏れデータが出現するため、これを反映させたデータを、「調査年データ」と定義し、確定データとして取り扱う事になりました。

2007年日本透析医学会学術集会において速報の「図説」を施設会員に配布し、透析医学会ホームページにも全文を掲載していますが、これをさらに利用しやすくするため、本CD-ROMには、全文を掲載すると共に、各図表をパワーポイントファイルとして収載していますので、ご利用頂ければ幸いです。

以上、高い回収率で「わが国の慢性透析療法の現況（2007年12月31日現在）CD-ROM版」の公刊に至りましたのは、会員をはじめ調査にご協力をいただきました皆様の、本統計調査に対するご認識の深さとご協力の賜物であります。厚く御礼申し上げます。

また、本帳票をご覧頂き2007年末調査項目の解析公募にも応募頂ければ幸いです。その他の解析要望は、統計調査委員会、あるいは各地域の統計調査委員や地域協力委員、統計解析小委員を介して申し出て頂きたいようお願い申し上げます。

本CD-ROM版には基礎集計とともに、透析液水質管理状況、肝炎ウイルス調査、腎性貧血治療の現状、大腿骨頸部骨折既往調査、新規透析導入期患者調査などの新規調査項目および解析結果の詳細が含まれています。さらに日科技研に依頼し再解析された、腎性骨症治療薬および骨代謝関連指標と各種予後との関連も収録されています。

統計調査委員会といたしましても臨床に役立つ情報をできる限りご提供できますよう、更には会員各位の様々な解析依頼にも対応すべく努力しなければならないと考えております。統計調査記載にご協力いただいた皆様、ならびに全国の地域協力小委員会の先生方のご努力に重ねて深く御礼申し上げます。

社団法人 日本透析医学会 統計調査委員会  
委員長 椿原美治